

南極観測データマネジメント検討  
WG報告  
南極、北極データの現状

藤田秀二

金尾 政紀

(国立極地研究所)

- 南極科学委員会 (SCAR) や国際北極科学委員会 (IASC) の動向を踏まえた、学術会議や極地研を含む我が国の対応 (極地研の対応)
- ワールドデータセンター (WDC) をはじめ、国際科学会議 (ICSU) 下のデータ関連の学術団体における組織改変など、国際極年に関連した動向について紹介
-

# 南極科学委員会 (SCAR) 対応

- 国際的要請 ⇒ SCAR 下の南極データマネジメント委員会 (SCADM) に呼応
- 関連各国に極域データの提供元としてのナショナルデータセンター (NADC) の設立が求められてきた。
- 極地研内の極域データセンター (PDC) が、SCADM に対応する NADC として活動しており、文字・数値データの所在に関する情報 (メタデータ) を中心に国内外に公開してきた  
(<http://scidbase.nipr.ac.jp/>; Kanao et al., 2008)。

国立極地研究所  
学術データベース

日本語 English

メニュー

- ホーム
- 極地メタデータベースとは
- メタデータ一覧
  - 雪氷圏
  - 気水圏
  - 地圏
  - 生物圏
  - 定常官庁
- データポリシー
- ユーザマニュアル
- 極地情報コモン
- 国際極年データ管理
- 関連リンク
- フォトギャラリー
- CONTACT

ログイン

ログイン

新規登録

パスワード紛失

サイト内検索

検索

検索オプション

アクセスカウンタ

総計: **7722**

国立極地研究所  
情報システム研究機構

新領域融合研究センター

Copyright © National Institute of Polar Research

メタデータ一覧

気象圏 気水圏 地圏 生物圏 定常官庁

観測データベース

オーロラ 世界気象データベース EISCAT Japan

極地 NOAA衛星データ 極地生物多様性データベース

極地動物植物データベース

南極隕石データベース

南極GIS 地図で見る南極

極地マスタ デイレクトリ

IPY International Polar Year 国際極年2007-2008

極地情報コモン

CC BY

This work by <http://polaris.nipr.ac.jp/> is licensed under a [Creative Commons Attribution 3.0 Unported License](https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/).  
None expects that users will follow the [Polar Information Commons Ethics and Norms of Data Sharing](https://polaris.nipr.ac.jp/policies/polar-information-commons/).

最新メタデータ

	2012-7-30 11:57	<a href="#">観測オーロラ観測記録</a>
	2012-7-26 11:47	<a href="#">低気圧による海洋環境データ</a>
	2012-7-25 15:24	<a href="#">昭和基地周辺における海洋環境データ</a>
	2012-7-25 15:23	<a href="#">南極海縁魚目観データ</a>
	2012-7-25 14:33	<a href="#">昭和基地周辺における動物プランクトンデータ</a>
	2012-7-25 14:14	<a href="#">海洋生物プランクトン観データ   昭和基地周辺における海洋環境データ</a>
	2012-7-25 14:11	<a href="#">海洋生物プランクトン観データ</a>
	2012-7-25 14:07	<a href="#">海洋観測のフロロフィル濃度</a>
	2012-7-25 13:53	<a href="#">海洋表面水クロロフィル量</a>
	2012-7-11 13:32	<a href="#">南極観測船「しらせ」船上ビデオ観測による海水層及び積雪濃度分布</a>

最新ニュース

- ユーザマニュアル(第3版)を更新しました。(2012-09-20 10:39:34)
- メタデータの観測領域をGoogle Mapへ表示しました。(2012-07-26 14:26:54)
- 第16回南極データマネージメント委員会が、2012年7月13、14日にポートランド(アメリカ)で開催(2012-07-24 11:44:58)
- ワールドデータシステム(WDS)の海外ディレクター3名が2012年5月25日に来所しました。(2012-07-24 11:31:17)
- ユーザマニュアルを更新しました(第2版)。(2012-04-18 10:30:51)
- ICSU / Science and Information Technology事務局のMustapha Mokrane氏が来所(2012-02-09 18:12:58)
- 2012年 地球観測科学連合大会「ユニオンアクション(U-01: Global Data Activity)」が開催(2012-01-27 15:39:01)
- アクセスカウンタを開始しました(2011-12-02 16:51:29)
- 国際極年データ管理のページが追加されました(2011-11-21 12:07:17)
- 第19回南極データマネージメント委員会が開催(2011-11-07 17:37:39)

Global Change Mater Directory (GCMD)

Antarctic Master Directory; AMD

Arctic Master Directory

IPY Master Directory

学術データの種類としては、定常官庁を含む南極域のモニタリング観測をはじめ、国際共同研究を含む様々なプロジェクト観測、また北極域のデータの一部が集積されている。PDCで公開しているメタデータの総数は、2011年11月段階で150件を超えている。

# IPY合同委員会でのデータ管理

- ICSUとWMOによる国際極年合同委員会 (IPY Joint Committee; IPY-JC) ⇒ IPY Data sub-committee (IPYデータに関する委員会)
- IPYデータ・情報サービス (IPY Data and Information Service; IPY-DIS) 設立  
<http://ipydis.org/> (2012年10月10日 renewal)

# IPY Legacyの今後の取り組み

- 「データ管理体制の枠組み (Governance)」
- 「データの相互利用 (interoperability)」
- 「データの長期保管 (preservation)」
- IPY-JC Summary Report (Parsonsら、2011)

# 極域情報コモン (Polar Information Commons; PIC)

- ポスト国際極年において南北両極で取得されたデータの管理公開を運営するための、新たに提案された組織
- IPY-IPOを中心に設立準備がなされ、ISCU下の学際団体の一つである「科学技術データ委員会 (CODATA)」が中心となり、サーバ管理作業に貢献している。しかしながら、SCAR、IASC、WMO、国際測地学・地球物理学連合 (IUGG) 等の他の学際団体も積極的に協力して運営
- 2010年6月に開催されたIPYオスロ大会では、PICの発起集会が盛大に行われた。

# 南極データ

- SCADMが主体となり「SCARのデータと情報に関するマネージメント戦略 (Data and Information Management Strategy; DIMS)」を作成し、その実行プラン (Implementation Plan ; IP 2009-2013; Finney, 2009)
  - 1) 相互利用可能なリポジトリ (= “データ資源” を意味する) ネットワークの構築
  - 2) SCAR プロジェクトの成果の評価についての公開作業
  - 3) PICの設立と運用への協力体制の維持



# 北極データ

- 国際極年以前はSCARのような組織的な取り組みはあまり行われていなかった。
- IPYの各種プロジェクトデータの管理は、例えばIASC下の「持続的北極観測網 (Sustaining Arctic Observing Networks; SAON)」等で議論されている。

# World Data System; WDS

- IGYで設立された「ワールドデータセンター (WDC)」
- 2008年10月のICSU総会
- 「天文及び地球物理データ解析サービス連合 (FAGS)」とWDCを統合 ⇒ ワールドデータシステム (World Data System; WDS) を発足
- ICSUからの要請 ⇒ ポスト国際極年において CODATAと共に極域データの収集管理公開への連携姿勢を明確に表明